vinetur

イタリアのワイン在庫、10月に4,770万ヘクトリットルへ増加

収穫したブドウの新たな生産分が貯蔵に入り、イタリアのワイン在庫は9月比16.2%増加した。

2026年11月10日（火）



イタリア農業省が発表した最新の「Cantina Italia」報告書によると、10月31日時点のイタリアのワイン在庫は4,770万ヘクトリットルに達し、前月および2025年の同時期を大きく上回った。11月9日（月）に公表された報告書では、9月30日時点の約4,100万ヘクトリットルから16.2%増加し、2025年10月31日比でも7.2%増え、増加量は320万ヘクトリットルを超えた。

このデータは、ブドウの収穫物が醸造工程に入るなか、イタリアのワイナリーで保管される量が幅広く増加していることを示している。完成したワインに加え、10月末時点でマストが1,580万ヘクトリットル、発酵中の新酒が1,370万ヘクトリットルあった。これらを合わせると、イタリアのワイナリーに保管されている製品の総量は約7,720万ヘクトリットルとなる。

数値は、イタリア農業省の品質保護・農産食品不正取締中央監察局（Icqrf）が、国内の電子ワイン台帳のデータを基に作成した「Cantina Italia」報告書第10号（2026年版）によるもの。省によると、10月31日時点で約23,665件の台帳が稼働していた。

ワイン在庫だけで、1カ月間に6,652,468ヘクトリットル増加した。これは、在庫が7月の水準を下回っていた9月の数値から明確に反転したことを示す。10月の新たなデータは、今季の収穫による新たな生産分が入ったことで、貯蔵されているワインの量が大きく増えたことをうかがわせる。

マストと発酵中のワインも、前月から大幅に増加した。マストは1,580万ヘクトリットルに達し、9月30日比で23％、2025年10月31日比で10.6％増加した。発酵中の新酒は前月比55.1％増の1,370万ヘクトリットルとなった一方、前年同月比では4％減少した。これらは醸造の異なる段階にあるため、すべてを販売可能なワインとして扱うことはできないが、イタリアの施設に現在どれほどの量があるかを示している。

地域別の内訳を見ると、ワインの貯蔵量では引き続きイタリア北部が大きな割合を占めた。国内のワイン在庫全体の61.2％が北部にあり、ヴェネト州だけで全国の26.9％を占めた。県別ではトレヴィーゾがイタリアのワイン在庫の13.2％、ヴェローナが7.9％を占めた。マストは南部の割合が最も大きく、全国量の47％を保有し、北部は41.3％だった。プーリア州とエミリア＝ロマーニャ州にはマスト在庫の合計62.4％が集中し、それぞれの割合は37.6％と24.8％だった。

貯蔵されているワインの構成からは、イタリア市場における保護対象の原産地呼称の重要性もうかがえる。保護原産地呼称ワイン（DOP）は全在庫の56.9％、保護地理的表示ワイン（IGP）は25.6％を占めた。品種表示ワインは1.6％で、残る16％はその他のカテゴリーだった。DOPワインでは白が在庫の50.6％とわずかに過半数を占めた。IGPワインでは赤が51.9％で最多だった。

報告書は、限られた数の地理的表示に在庫が集中していることも示した。上位20の呼称が、地理的表示付きワインの在庫の59.6％を占めた。飲料業界にとって、在庫の積み上がりはワイナリーの保管管理にとどまらない意味を持つ。新たな生産サイクルの始まりに在庫が前年の水準を上回ると、特にその規模が大きい場合、バルクワイン価格を押し下げる可能性があり、今後数カ月の生産計画、貯蔵、輸出戦略の判断にも影響しうる。